

58

## 福井コレクションに遺された 幻の病院船「大和丸」の痕跡

柳川 錬平

順天堂大学

福井静夫(1913-1993)は海軍造船士官として終戦を迎えたあと、当時一斉に処分されつつあった海軍艦艇資料を収集し、万一の類焼も避けるために敢えて郊外へ転居するなど入念な保護に努めながら、これらの資料を活用して海軍艦船に関する多くの著作物を刊行した。福井が収集した艦船資料は「福井コレクション」とも称され、7万枚を超える写真を含む約10万点から構成され、個人所有としては世界的な規模の艦船資料群として知られていた。福井が亡くなる直前に、これらの膨大な資料は一括して呉市海事歴史科学館へ移譲され、現在も同館の管理下で整理作業が続けられている。

福井が残した著作物も膨大な数に上るが、その題材の多くは戦闘艦を中心とする海軍艦艇で占められ、特設病院船については『写真 日本海軍全艦艇史』(下巻)に9隻(「神戸丸」,「西京丸」,「八幡丸」,「笠戸丸」,「朝日丸」(3葉),「橘丸」,「氷川丸」,「高砂丸」(2葉),「天応丸」(2葉))の比較的鮮明な写真が、それぞれの短い説明とともに収載されるに留まる。一方、同書は戦後の刊行物で唯一「八幡丸」が青島周辺で収容した正確な患者数を、その簡潔な説明文に含んでおり、同コレクションには写真以外に貴重な文献資料も含まれていることが期待されていた。

演者は最近になって呉市海事歴史科学館で同コレクションの閲覧を許可され、医療に関連する写真・図面・関連文書(和洋雑誌を除く)の抽出を概ね完了した。写真としては、海軍撮影による公的な写真の他、私的に撮影されたものや、対戦国の潜水艦から撮影されたと思われるものを含めて、病院船等23隻(病院船艦装前の商船3,日本海軍12,日本陸軍5,日本赤十字2,他国海軍1)分の147枚を確認した。船によっては艦装中・航行中など、既出の資料には見られない貴重な写真も含まれていた。図面では、特設病院船の艦装方案書・艦装図として3隻分が確認されたが、中にはこれまで病院船との関わりについては全く言及されていない「大和丸」の図面も含まれていた。一方で、関連文書として病院船の具体的な活動内容についての手がかりになりそうなものは発見できなかった。

今次調査における特筆すべき成果として、これまで病院船との関わりについては全く言及されていなかった「大和丸」の病院船艦装方案書および艦装図を発見するに至ったので、「大和丸」が病院船候補に挙げられながら最終的に艦装には至らなかった理由についても考察した。「大和丸」は、大正4年にイタリアで建造された貨客船(旧名:ジュゼッペ・ベルディ、総トン数9656トン、排水量16000トン、速力18ノット)であり、昭和3年に近海郵船(現・日本郵船)に購入されて台湾航路(神戸-基隆)に就航していた。大戦中の昭和17年に船舶運営会使用船となり、昭和18年9月13日揚子江河口の南東沖で米国の潜水艦による雷撃を受けて沈没した。これまでに「大和丸」を病院船と結びつける史料は見つかっていない一方で、同じく台湾航路を担っていた同型の姉妹船として知られる「朝日丸」は支那事変に際して昭和12年8月に特設病院船として徴備されている。今回発見した「大和丸」の艦装図の調整は昭和9年10月と記されており、「朝日丸」の病院船徴備以前であったことから、病院船候補は何らかの理由で当初の「大和丸」から「朝日丸」に変更されたことが窺われた。元々同じ造船所で姉妹船として建造された両者を比較しても相違点は乏しいものの、日本郵船歴史博物館に残る両者の客室配置図から、等級ごとの収容人数が「大和丸」は1等61名:2等217名:3等673名に対して「朝日丸」は同63名:220名:672名、と僅かに異なっていたことが判明した。「朝日丸」が病院船として最終的に選択された一因として、客室区画の相違についても考慮すべきことが示唆された。